



コミュニティのあり方と平成23年度のコミュニティ活動を検討

概ね小学校区をエリアに活動している23のコミュニティ単会が時代にあった活動を進めるため、行政としての支援策などを調査・研究する「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」で検討を重ねています。また、23単会の会長で構成するコミュニティ推進協議会では次年度の事業計画を策定する委員会を発足し、検討をしています。

しずつ報告書の形にまとめつつあります。

持続可能なコミュニティのあり方

これまで35年間続けてきた市政への協力、学区内の課題解決、住民の連帯意識の醸成などのコミュニティ活動が、町内会等の加入率の低下や、高齢化などに伴い各種の課題を抱えることになってきました。

こうした現状を受け、平成21年12月に「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」が発足して以来、これまで13回の会議を重ねてきました。検討の過程では2回の各単会リーダーとの意見交換会の開催、委員会の一般公開、市民からの意見募集、日立市のホームページでの会

議録要旨や会議資料などを閲覧可能にするなど丁寧に進めています。

現在、次のような項目に沿って少

しずつ報告書の形にまとめつつあります。

1. コミュニティを取り巻く現状。

- ①コミュニティの自治意識の希薄化、
- ②コミュニティ活動の担い手不足、
- ③市などからのコミュニティへの依頼業務の増加、
- ④財政基盤の偏りと事務負担の増加

2. 持続可能なコミュニティ自治の構築に向けた取組。

①コミュニティを

市政に適切に位置づける、②コミュニティの自治を確立し協働を推進する、③コミュニティをめぐる諸課題に対する具体的な方策

3. 事後的な検証

今後も数回の委員会の中で検討を加えて、平成22年度中には市長への提言が予定されています。

平成23年度の事業計画を策定

コミュニティ推進協議会の、平成23年度事業計画を策定するための事業検討委員会が12月に発足し、コミュニティ全体で取り組む事業を検討しています。

基本方針や新たなコミュニティ活動、環境や地域福祉、自主防災や防犯、青少年育成など、各種テーマに沿った活動などが検討され、役員会や会長会議で議論されて各種事業が実施されることとなります。



コミュニティリーダーと意見交換会

百年塾と連携で実施する楽しい役立つ講座

ひたち生き生き百年塾がコミュニティ推進会向けに提案した「楽しい役に立つ」講座に、コミュニティの7学区が名乗りを上げ、昨年11月から実施しています。



デジカメ講座が大好評

11月11日(木)の「デジカメ教室」は豊浦学区まちづくり推進会。大いに盛り上がりました。

11月24日(水)の「他地区の得意料理：水木地区の手作りまんじゅう」は田尻学区コミュニティ推進会。

11月28日(日)の「地魚料理

講習会」は河原子学区コミュニティ推進会、1月30日(日)は日高学区市民自治会。

12月6日(月)のコミュニティ単会の「ホームページの更新の仕方」は宮田学区コミュニティ推進会。今後も続けられます。

1月26日(水)の、旬の野菜や果物の保存と利用の仕方「知って得する野菜料理教室」は中小路学区コミュニティ推進会。

2月25日(金)の入園、入学時に必要な小物作りを応援する「手作り針仕事」は成沢学区コミュニティ推進会。

これまで実施された各講座は楽しい、役立つと大好評で、この協働事業によって新たな学びや交流の機会となりました。

健康がテーマ コミュニティで仕組みを生かして取り組む

現在の課題を解決するために行政の各課ではさまざまな事業をコミュニティと協働で展開しています。しかし、それぞれ単独で行われていることが多く、確実に効

果を上げることが難しくなっています。それらの事業を各コミュニティでは独自の工夫をしながら学区の事業や活動に取り込み成果を上げています。

2つの持ち味を活かし 地域に広げる

日立市は平成14年に健康増進を目的に、健康づくり推進員の養成をスタート、現在は修了者約350名が登録しています。推進員は各学区内で運動教室等の企画運営、各種イベントでの健康体操を取り入れた日立音頭の普及にも努めています。

また、茨城県は高齢者の介護予防を目的にした、どんな姿勢でも、どこでも、道具なしでできるシルバーリハビリ体操を普及するための、シルバーリハビリ体操指導士を養成しています。市内には約170名が知事から認定証を交付されており、2級認定者の約30名が中心となって指導普及を行っています。

坂下地区コミュニティ推進会では、平成19年度から健康づくり推進員と、シルバーリハビリ体操指導士と一緒に活動できるように一体化を図り、「健康推進クラブ」を結成、地

区内集会所などでお互いの持ち味を取り入れた健康体操などを出前で行



今日も元気でシルバー体操

ています。健康志向が高まると同時に、ふれあいや交流ができること好評で、範囲の拡大に努めています。

健康推進事業は行政だけでなく、コミュニティが関わりを持ちながら進める必要があります。意欲を持った人々を地域の中に埋没させないように、双方の持ち味を活かしながら活動を広げることも重要な役割となっています。

住民の健康づくりは 食生活改善

全国的なボランティア集団として「私たちの健康は私たちの手で」と食生活改善推進員（通称：ヘルスマイト）は、地域の乳児から高齢者までを対象として、ライフステージに応じた食生活改善のための健康づくりの普及活動を実施しています。

日立市のヘルスマイト362人は学区ごとに各交流センターを会場に研修を行い、コミュニティや各種団体からの依頼でイベントにも参加しています。

栄養士から研修を受けてヘルスマイトに伝達を行い、地区活動として夏休みには親子、秋には男性、冬には減塩料理教室を開催しています。

また、ひとり暮らし高齢者試食会での栄養士の試食づくりの補助を行っています。

会瀬学区コミュニティ推進会では青少年育成部主催の「おおせ元気っ子体験村」や「居場所づくり」のおおせっ子サロンのプログラムのエコクッキング：皮まで使った野菜たっぷり味噌汁づくりで食育の指導を行いました。



腕はまだまだ楽しい料理!

また、「おもちゃライブラリー」でも乳幼児を持つ親たちに、栄養士からの講話やおやつの大切さについての食育と栄養相談、試食会を開催。試食のおやつづくりを行うなど地域の健康づくりのための食生活改善を進めています。

【担当課からひとこと】

日立市には、健康づくりを進めるボランティアとして、現在、健康づくり推進員、食生活改善推進員がいます。健康づくり推進員は、学区コミュニティ単位で、健康運動教室やイベントで健康コーナーの企画・運営を通し、健康づくりの普及啓発を行い、食生活改善推進員は、地域ぐるみで減塩やバランスのよい食習慣づくりを進めています。

また、市では特定健診の受診率アップに力を入れており、市民が自らの健康に関心を持つ機会づくりをしています。市民の皆さんのご協力をお願いします。

健康づくり推進課

日高学区 元気アップ賞の最優秀賞

日立市が、健康づくりに取り組んでいる個人・団体などを顕彰する「ひたち元気アップ賞」の最優秀賞に日高学区市民自治会（志賀勝弘会長）が実施している「ひたかラジオ体操」が選ばれました。

「ひたかラジオ体操」は、平成18年から始められ、4月から10月末まで、日高交流センター広場で毎日実施されています。100人前後の大人や子どもが徒歩で集まり、元気な挨拶を交わし、1日のスタートのラジオ体操は地域住民の健康づくりと交流の場としてにぎわっています。

高齢社会での老人クラブの活動 まちづくりの重要なテーマに

諏訪学区コミュニティ推進会は、平成18年度の「公民館等統一管理の基本方針」に基づいて、地区老人クラブ連合会との関わりについて、コミュニティ推進会が音頭をとって、各老人クラブの関係者と一緒に今後の対応や進め方について話し合いを行いました。



若さいっぱい、ポーズは最高!!

その結果、まずは3団体、会員数239名で諏訪学区老人クラブ連合会（諏訪老連）を結成し、事務局を諏訪交流センター内に置いて交流センター事務長が担当することにしました。人生経験が豊かで博学者である人たちの自主性や独自性を尊重し

て、当面はコミュニティ推進会の組織には属さず、生涯学習推進委員会と連携して各種の活動をしていくことにしました。

諏訪老連の主な事業や活動は次のようなものです。①市老連関連事業へ参加、②推進会と共催の高齢者スポーツ大会、講演会など、③推進会事業へ参加（公共交通委員会の委員として参画、ふれあい秋祭り・三世代レク大会・ふれあい盆踊り大会）、④各クラブ独自の活動（地域内の公園・公共施設の清掃、会員研鑽と健康維持向上、福祉の増進、趣味や教養のサークル活動）など。

年2回のコミュニティ推進会の三役との懇談会、推進会会長と事務長が出席する毎月第3木曜日に開催される諏訪老連役員会などで確認作業を行い連携を図っています。

各クラブ独自の活動だけでなく、コミュニティ推進会の事業にも積極的に参加、楽しみながら生き生きと元気に活動している姿に会う時、な

んと頼もしく感じます。

年々高齢化率は上昇しており、近い将来3人に1人が65歳という時代がやって来ます。高齢者との関わりは非常に重要になってきました。高齢者の生きがいや安全で安心な生活を考える時、コミュニティ推進会も地区老連と積極的に関わり、ふれあいの輪を広げていくこともまちづくりの重要なテーマになっています。

コミュニティ型 初の学童クラブを開設



子どもは外遊びが大好き

平成22年度、塙山学区住みよいまちをつくる会では、共働きの家庭を支援するため、コミュニティ初の学童クラブ「わくわく広場」を開設しました。午後7時までの受入時間の延長や、長期休暇の受入時間を午前7時30分からにするなど、利用する保護者のニーズに応えた運営をしてきました。

スタッフには地域の60代の男性をはじめ、書道や絵画の先生、日曜大工や料理の達人、野球やサッカーの指導者、保育士、情熱のある人などが顔をそろえ多彩なプログラム組み立てを応援しました。通常は4名の児童でしたが、長期休みは塙山小学以外の多くの児童を引き受け、交流センター中庭、小学校グラウンド、地域内の各所を保育場所にしながら活動を展開。夏はバスを利用しての学習会、年末年始の行事など体験を重視した運営をしています。子どもは地域ぐるみで育てることをモットーに、時代に即応した事業として取り組んでいます。

グラウンドゴルフで 三世代交流

高齢化はますます進み、現在、日立市の高齢化は24.3%です。高齢者にとって、いつまでも元気に生きいきとした生活を送ることはとても重要なことです。高齢者は自ら体力づくりに努めると共に、行政やコミュニティでも病気の予防や介護予防に力点を置いた施策が進められています。

各コミュニティでは高齢者を含めた事業を増やす傾向にあります。体力づくりと地域住民の親睦を図り、小学生から高齢者まで三世代の交流を図る一環として、グラウンドゴルフを取り入れているコミュニティ推進会がいくつかあります。ここでは三世代グラウンドゴルフ大会を始め



一致協力にホールイン

てから26回を数える豊浦学区の様子取材しました。

グラウンドゴルフは誰にでも簡単にできることから、団体戦は地区単位の三世代6人による混成チームで行います。小学生から高齢者まで協力しながらのプレーと世代を越えた会話もでき、普段なかなかできないふれあいの場になっています。また、個人戦も男子、女子、小学生の部があり、毎年百数十名の参加で盛り上がり体力づくりにも役立っています。



単会リレー訪問 特色ある活動を紹介(Ⅷ)

日立市には概ね小学校区をエリアに活動している23のコミュニティ単会があります。それぞれの単会では地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て支援、環境、生涯学習など

をテーマに、多くの住民と一緒に地域の特色を活かしたまちづくりを続けています。今回は諏訪学区コミュニティ推進会と宮田学区コミュニティ推進会を紹介します。

楽しい「出前介護講座」

諏訪学区コミュニティ推進会

雲一つない青空の日、諏訪交流センターを訪ね、会長の澤田貞真さんにコミュニティ推進会の特徴的な活動について伺いました。



介護講座 シーツ交換

諏訪学区コミュニティ推進会は、文化体育部、環境美化部、防災部、青少年育成部、総務広報局、健康づくり委員会、生涯学習委員会、子どもを守る委員会、社会福祉委員会で組織され、活動が展開されています。

全国的に高齢社会が急速に進んでおり、私たちを取り巻くコミュニティでも新たな活動やその対応策に苦慮している現状にあります。そのような中で、諏訪学区コミュニティ推進会の社会福祉委員会の、介護支援グループの人たちが、17年前から取り組んでいる「出前介護講座」は、特色のある活動の一つではないかと、澤田会長は話しています。

高齢社会を迎え在宅介護が不可欠となっている現状の中で、その手助けを始めてみてはということになったのです。

まず、その手助けの一端として、学区内の自治会やボランティア団体を対象にした、介護に必要な技術の講習会を始めました。現在13名の介護講座スタッフがチームを組み、当番で集会所や個人宅に向向しています。シーツや寝具の交換、寝返りや起き上がりの介助、体位移動、清潔の世話、車椅子の操作などの実技

の指導に取り組んでいます。笑顔の中で真剣な講座が行われている様子が伝わってきました。

今年度は、6会場で90余名が受講しています。受講者からは「親の介護に役立ってよかった」「もっと早く受講したかった」など、感謝やお礼の声が届けられており、スタッフの励みになっています。

“ふれあいのまち”をつくる

宮田学区コミュニティ推進会

宮田交流センターを訪ね、今年度からコミュニティ推進会の会長に就任した田尻久さんに話を聞きました。

宮田学区は、古くから住んでいる住民が多い地区で、高齢化率が非常に高く、一人暮らしのお年寄りも多くなっています。他の地区に住む子どものもとに移り住むお年寄りも多くなり、残された空き家や更地になった宅地跡があちこちに見られます。肩を寄せ合うように仲良く住んでいた「お隣さん」がいなくなり、向こう三軒両隣の気持ちで成り立つ町内会の編成が難しくなっているのが現状だそうです。

宮田学区では、学区の方針である「明るく楽しく住んでよかったまち」を創るためには、住民同士のふれあいや協力し合う気持ちをつくるのが大切と、「みやたふれあいまつり」と「宮田元気っ子体験村」の事業には、特に力を入れています。

ふれあいまつりでは、住民の協力で支部ごとに模擬店を出店し、祭り



まつりで深める絆!

を楽しみながら絆を深めています。幼稚園や小・中学校、子ども会など地域の住民や団体が、ともに力を出し合っってイベントを創り、楽しみ、成功させています。今年度の地域のまつりでは1600人が集い、住民がふれあいを深めました。

「宮田元気っ子体験村」は、宮田学区の子どもたちが、たくさんの地域の人々の協力をもらいながら、宮田小学校の校庭で2泊3日のテント生活をおくります。宮田八景スタンプラリー、ドラム缶風呂体験、丸太切り大会、いかだ競争などの様々な野外活動を通して、楽しんだり苦労したりしながら、仲間と協力することの大切さや、地域の人たちへ感謝する心などを学ぶ機会になっています。郷土の素晴らしさに知りふれ合うこともできました。